

ボラステ白熱プログラム

ワクドキの六限入門編～学び×体験で地域にトビタテ！～

＜対象＞	全学科学生
＜場所/時間＞	ボランティアステーション/17:50～18:35
＜内容＞	10/25 (火) おやつとしてのボランティア 【庄司 則雄さん】
	11/1 (火) 地域に出て人と話そう！ 【松田 道雄先生】
	11/8 (火) “寄り添い”と3つの“つ” 【松田 久美子さん】
	11/15 (火) ボランティア活動で私は変わった！【渋谷 佳代さん(学生)】
	【桃井 美紀さん(学生)】

ワクドキの六限は、ボランティアや地域に関わり続ける教職員や学生が、毎回講師として、自身の経験などを話し、参加者全員で共有する、ボランティアステーション企画の講座です。

【第1回 講師：庄司則雄さん】



ボランティアがもつ最大の
チカラは「私」発！

学生時代からボランティア活動をしてきた庄司さん。「おやつ」という誰にでも馴染みのある言葉から、ボランティアを通して経験したことや出会った方々とのご縁の話など、たくさんお話をしてくださいました。

何気なく使っている「ボランティア」という言葉。実は、ラテン語の「ウォロ (volo)」が語源で、「自分から進んで～する」という意味を持っているそうです。

ボランティアはまさに、“おやつ”のように、楽しみながら好きなことを無理なく(満腹にならないように)自らやりたいと思ってやるというお話に、参加者一同大きくなすいていました。

【第2回 講師：松田道雄先生】

参加者一人ひとりの子ども時代の思い出を共有するところから、スタートしました。今回は学生から教職員まで、幅広い年代が集まったこともあり、様々な年代の「遊び」や「当時の事情」、「地域の様子」などいろいろな話に花が咲きました。一人ひとりの話をどんどん引き出しながら、そ





子どもの頃に帰った気持ちで、
楽しんでいます。

れぞれの話題を繋ぎ、世代を超えたゆるやかな対話の場をつくり出していく松田先生。次第に和やかな雰囲気になっていきました。

松田先生は、「だがしや楽校」という活動を全国各地で実施されています。“だがしやのおばあちゃん”のように、地域の方々の話に耳を傾け、人との触れ合いを楽しみながら、活動されています。いつになっても、どんな場所でも、「人との関わりの重要性」は変わることがないということを感じる時間でした。

【第3回 講師：松田久美子さん】

松田さんはボランティアステーションのスタッフとして、学生のボランティアチーム TASKI に所属している学生を支え、仮設住宅を訪問し、住民の皆さんに寄り添った活動を続けています。今回のテーマである「3つの“つ”」とは、「つたえる・つなげる・つづける」です。

仮設住宅に通い続けている松田さんだからこそ感じた住民さんの思いや悩み、変化、そして現在私たちに求められることなどを、丁寧にお話してくださいました。震災から5年8ヶ月が経ちましたが、住民さんに寄り添いながら、今後も途切れない支援を続けていくことが大切だと改めて感じるひと時でした。



住民さんの気持ちになって
考えてみよう！

【第4回 講師：渋谷佳代さん、桃井美紀さん（学生）】




表現文化学科4年
渋谷佳代さん

ワクドキの六限入門編、最後の回は2名の学生が大学に入ってから始めたボランティア活動について話しました。渋谷さんは、学生生活にも慣れてきた2年生の頃から、ボランティア活動を始め、TASKIの活動に関わっています。ボランティア活動を続けたことが、自分自身を大きく成長させるきっかけとなり、たくさんの気づきを得たとのこと。現在、ボラステ新聞の作成に力を入れており、思いを伝える役割を果たそうと頑張っています。

桃井さんは、2年生の時に参加した兵庫県神戸市での学生シンポジウムがきっかけとなり、活動の幅を広げました。今年の夏には、地元である福島県で行われた子どもの防災キャンプにもボランティアとして参加したそうで、地元の子どもたちと防災について考えた経験についても話しました。

もともと、人前で話すことが苦手だった桃井さん。学生シンポジウムやさまざまなボランティア活動によって成長し、この日も堂々と発表を進めていました。



人間心理学科4年
桃井美紀さん

文：子ども学科4年 沼田麻里
(連携交流課 ワークスタディ学生)